

平成13年度

岩城クリニック 心療内科 兼田 康宏

留学先 Vanderbilt University Medical Center(2002.4~2003.3)

留学目的・研究テーマ

抗精神病薬が統合失調症者の認知機能及びQoLに及ぼす影響に関する研究

研究結果

[研究1] 対象は、59名の治療抵抗性の統合失調症/統合失調感情障害者で、認知機能(注意, 言語性ワーキング・メモリ, 言語流暢性, 言語性記憶, 遂行機能), 精神症状及び就労状況を後方視的に評価した。その結果, 「第2世代」抗精神病薬 Clozapine による治療開始後12ヶ月目の就労状況は, 統計学的に有意な改善を示していた [$\chi^2=12.0$, $df=1$, $p<0.001$]。すなわち, ベースラインでは12名(20.3%)が就労していたにすぎなかったが, 12ヶ月後には, ベースラインでの非就労者47名のうち23名(48.9%)が就労していた。また, 就労状況あるいはまたその改善を予測する上で, 認知機能は精神症状よりも重要な因子で, 中でも, 「言語性ワーキング・メモリ」の改善が, 就労状況の改善にとってより重要である事が示唆された。すなわち, 罹病期間及びベースラインでの精神症状/認知機能評価得点を調整した共分散分析の結果, 唯一, 「言語性ワーキング・メモリ」の指標である Consonant Trigram Test (CTT; Peterson & Peterson, 1959) 得点において2群(就労できないままでいた群と就労する事が出来た群)間の主効果と時間による交互作用に差を認めた [$F(1, 23)=4.65$, $p=0.04$]。そして, この交互作用は, 就労する事の出来た患者群において CTT 得点がより優れた改善をみた結果によるものであった。さらに, ステップワイズ法によるロジスティック回帰分析の結果, 12ヶ月後の CTT 得点が, 就労状況改善の最も強い予測因子であった [$\chi^2=11.17$, $df=1$, $p<0.001$] (1)。

[研究2] 新たなサンプル(152名の統合失調者/統合失調感情障害者)を対象とした横断的研究の検討の結果, 就労者(32名)は非就労者(120名)よりも, 平均年齢が低く [$t=2.75$, $df=147$, $p<0.01$], 平均罹病期間が短く [$t=3.15$, $df=71$, $p<0.01$], 精神症状 [$t=2.56$, $df=146$, $p=0.01$], 特に陽性症状が軽く [$t=2.62$, $df=146$, $p=0.01$], そして, 「注意」の指標である Continuous Performance Test (CPT; Loong, 1991) 得点 [$t=2.99$, $df=50$, $p<0.01$] 及び 「ワーキング・メモリ」の指標である CTT 得点 [$t=-4.03$, $df=150$, $p<0.001$] と Spatial Working Memory Test (SWMT; McGurk et al, 2004) 得点 [$t=-3.11$, $df=118$, $p<0.01$] において統計学的に有意に優れていた。中でも, CTT 得点が就労状況の最も強い予測因子であった [$\chi^2=7.64$, $df=1$, $p<0.01$]。

以上より, 統合失調症/統合失調感情障害の就労を左右する重要な因子は, 精神症状よりもむしろ認知機能, なかでも「ワーキング・メモリ」であり, 「第2世代」抗精神病薬 Clozapine は, 認知機能を高めることにより, 統合失調症/統合失調感情障害者の就労状況を改善させる可能性が示唆された (2)。

(1) Kaneda, Y, et al., 2004. Determinants of work outcome in neuroleptic-resistant schizophrenia: cognitive impairment and clozapine treatment. In XXIVth Collegium Internationale Neuro-Psychopharmacologicum (CINP) Congress, Paris

(2) Kaneda, Y, et al., 2005. Determinants of Work Outcome in Schizophrenia and Schizoaffective Disorder: A Role of Cognitive Function. In the International Neuropsychological Society (INS) Joint Mid-Year Meeting with the British Neuropsychological Society (BNS) and the Division of Neuropsychology (DoN) of the British Psychological Society (BPS), Dublin.